

新直轄方式 第1号路線となる 本別—釧路間開通へ向け、 経済効果を生む 北海道横断自動車道への 期待が高まっています。



北海道開発局 帯広開発建設部
足寄道路事務所 渡辺 邦夫 所長



事務所外観

4路線、二つの国立公園内の 道路事業に取り組む

足寄道路事務所は、平成17年4月に帯広開発建設部の出先機関として、それまでの足寄道路維持事業所と足寄道路建設事業所が統合して発足しました。北海道横断自動車道、一般国道241号、242号、273号、274号の4路線を改築、維持、管理し、その距離は約254kmになります。

それぞれの路線のほとんどが、峠でほかの開発建設部と隣接しているのが特徴的で、例えば241号の足寄峠（645m）と274号の釧路峠（450m）は釧路開発建設部、242号の池北峠（393m）は網走開発建設部、273号の三国峠（1139m）は旭川開発建設部と隣接しています。

特に三国峠は高さがあるため平野部との気象状況の差が大きく、カメラでの監視を24時間行い大きな障害が出ないように除雪体制を整えています。

また、阿寒国立公園と大雪山国立公園の二つの国立公園があるため、自然環境を最優先している国立公園の厳しい規制を守りながら事業を展開している点も特徴的です。273号は糠平湖周辺を通り、並行して北海道遺産の旧国鉄土幌線アーチ橋を見ることができます。大雪山国立公園と歴史的な遺産を、「国道を通じてどう利用していくか」がテーマとなっている路線です。

さらに阿寒国立公園内にある雌阿寒岳の噴火に備え、避難路の確保が重要な課題です。241号のステーションでは常にカメラでの監視も続けられています。

CO₂の発生を抑制する 環境に優しい工事を実施

現在、242号の千代田大橋の新橋への架け替え工事が、平成19年度の完成を目指して行われています。十勝川にかかる千代田大橋は、昭和29年から池田町と幕別町を結ぶ橋梁として長年利用されてきましたが、平成15年9月に発生した十勝沖地震（M8.0）により、大きな損傷を受けました。そのため応急処置が施され、安全を確保した上で使用されています。

が、今後新橋に架け替えられることで快適な道路環境が整うと考えられます。具体的には、車道幅員が5.5mと狭く大型車のすれ違いが困難な状態が続いていますがそれを解消。歩行者や自転車が安全に通行できるよう、歩道も新たに設けられます。

近年、地球温暖化問題がクローズアップされていますが、千代田大橋の架け替え工事では「天然ガス圧接」工法を用いて、環境への配慮にも取り組んでいます。エコウィル工法とも呼ばれていて、従来のアセチレンを用いたガス圧接に比べて、CO₂の発生を抑制をすることが可能です。

このほか北海道横断自動車道本別町の貴老路大橋下部工事における橋脚の建設には「竹割土留」工法。これにより施工時の地形改変面積を最小限に抑えることができます。さらには同じく北海道横断自動車道本別町の道路の法面改良工事では、リサイクル型の植生工であり、外来種や強い種を混入しない「無播種の緑化工法（種子無し）」など、環境に優しい道路づくりを行っています。

241号、242号の足寄道路については勉強会を開催し、道路利用者と議論を交わしながら足寄町のインフラ整備も同時に行っています。延長2.4kmの2車線拡幅事業は、地域の活性化に大きく寄与することは間違いありません。

釧根圏と道央圏を結び 経済的メリットを生み出す

北海道横断道路自動車は、起点を留寿都郡黒松内町、終点を根室市（根室線）と網走市（網走線）とする高規格道路です。十勝管内では平成7年度に十勝清水IC—池田IC、平成15年度には池田IC—本別IC間、足寄IC間が供用となりました。本別—釧路間と、足寄—北見間は新直轄方式に変更され、本別ICから白糠IC、阿寒ICを経て釧路ICへ至る、本別—釧路間の事業区間については地域の強い要望もあり工事が着手されています（新直轄方式第1号路線）。

渡辺邦夫所長は「釧根圏と道央圏を結ぶ高速ネットワークの形成による地域経済のメリットは大きく、また主要幹線である国道38号の代替え道路としての重要性も発揮されるものと考えられます」と話しています。

なお、足寄—北見間が抜本的見直し区間となっていますが、陸別小利別—北見間が「当面緊急に整備



千代田大橋の新橋への架け替え工事

すべき区間」とされ、工事着手に向け設計協議が進められています。

新直轄方式は日本道路公団の民営化に伴い全国で行われている事業で、国と地方自治体が費用を分担し建設される高速自動車道路です。完成後は無料で開放されます。

道内では北海道縦貫自動車道道央自動車の士別剣淵IC—名寄IC、七飯IC—大沼ICも新直轄区間です。

ふるさと銀河線廃止後の 重要な役目を担う路線

「昨年4月に、残念ながらふるさと銀河線が廃止となりバスへの転換となりました。それにより242号では今までバス停のなかったところに新たにバス停を作ったり、待ち合い室を整備するなどいろいろな取り組みが行われています。道路管理者としてバスの安全な定時運行が図られるよう、できるだけのことをさせていただこうと思っています」と、地域のことを考える渡辺所長。

また、地域とのつながりとしてボランティア・サポート・プログラムが全国で展開されていますが、このエリアでも「本別町仙美里元町自治会」「本別町南4丁目自治会」「ぬかびら温泉郷美しくする会」「花道足寄241」が、植樹などで美しい道路づくりに参加しています。

最後に渡辺所長は苦笑しながら「皆さんご承知の通り、大変厳しい財源状況にあります。道路は社会的なネットワークとして必要なものでありますが、コスト削減の面で住民の理解をどう得ていくのかが頭の痛い部分です」と、思わず本音の部分も出てしまったようです。